

第2回鎌倉街道上道を歩く おまけ

＜鎌倉駅～鎌倉駅＞

距離 約5km

1. 日時 2023年6月16日(金)
雨天の場合は 6月16日(金)
2. 集合場所 所沢駅 ホーム中央階段下 8:45
3. 出発時間 8時49分(準急中華街行)
4. 昼食 12:00 手打ちそば宮前 予定
5. 拝観料 1200円予定

所沢 8:49 準急中華街行—10:06 横浜 10:15—10:39 鎌倉 10:50 バス—大塔宮バス停—覚園寺—昼食：手打ちそば宮前—鎌倉宮—永福寺跡—杉本寺—報国寺—~~浄明寺~~—15:33 浄明寺バス停—鎌倉駅…所沢着 18時頃予定

所沢から鎌倉街道上つ道を歩き継いで来ました。上つ道を通って新田義貞の進軍と同様西から鎌倉を目指しました。今回は鎌倉街道歩きのおまけとして、鶴岡八幡の東側に行きたいと思いません。本来は朝夷奈切通しから鎌倉の東側に抜きたいと思いましたが、朝夷奈切通しは予想より急坂で、また梅雨時でぬかるんでいる所もあり、諦めました。そこで、東側の社寺を回ってみたいと思います。皆さんからリクエストがあった所に行きます。

0.予備知識「鎌倉幕府」はどこに？

頼朝が鎌倉入りし、幕府を開いた場所は鶴岡八幡宮の東側奥に隠れたような大倉の地。「大倉幕府」とも呼ばれる。現在は幕府跡の石碑が清泉小学校の敷地内にある以外は、東西南北に門があったとされる名残で西御門(にしみかど)という地名が存在し、西御門石碑から突き当りの金沢街道辺りまでが大倉幕府敷地の一辺とみられる。

敷地は縦・横それぞれ200数十m程度の広さと推定される。御所敷地はもう少し東寄りに広がるともいわれる。いずれにせよ、

比較的コンパクトな空間であり、「吾妻鏡」によると、将軍御所創建時に集まった武士は311人と伝えられている。

大倉に幕府が置かれたのは、頼朝から実朝に至る源氏三代と北条義時、政子の時代に限られ、三代執権・北条泰時は、北条政子が亡くなると「大倉幕府」を宇津宮辻子に移した。また、4代将軍が若宮大路に幕府を移すまでの11年間は、ここが政治の中心となる。

「鎌倉幕府」成立の過程

1180年	源頼朝が挙兵、鎌倉入り。「大倉幕府」を立ち上げ、侍所を設ける【開幕1180年説】
	富士川の戦い
1184年	問注所、公文所を設置
1185年	平家が壇ノ浦の戦いで滅亡
	守護・地頭が置かれる【開幕1185年説】
1189年	奥州に追われた義経が死に追い込まれる
1192年	頼朝が征夷大將軍に任ぜられる【開幕1192年説】
	政所を開設
1199年	頼朝が急死

荏柄天神社 青文字は今回割愛

福岡の太宰府天満宮、京都の北野天満宮と共に三古天神と称される。現在の本殿は鶴岡八幡宮若宮の旧拝殿で、鎌倉最古の木造建築として国の重文に指定されている。

頼朝の墓 頼朝の持仏堂があった場所。

コースガイド

① 覚園寺: 拝観料 500円

覚園寺は1218年二代執権北条義時の薬師如来信仰により建てられた大倉薬師が、覚園寺のはじまりです。

焼失後の1296年九代執権北条貞時が、元寇の再来がないようお願い、真言・天台・禅・浄土の四宗を学べる道場、覚園寺としまし

た。大倉薬師堂は消失し現在の薬師堂と尊像は足利尊氏の再建で、尊氏自筆の棟札を天井に見ることができます。

薬師堂の中央に祀られているのが本尊の薬師如来、その右に日光菩薩、左に月光菩薩、薬師三尊を守る十二神将が祀られています。十二神将は私たちの干支の象徴でもあり、神将の頭頂部に干支の動物がつけられています。

本堂薬師堂を中心とする堂宇、数多くの仏像、古趣あふれる自然環境が一体となった、中世鎌倉の祈りをささげる空間、「鎌倉らしさ」を是非、感じてください。



② 鎌倉宮 境内は無料、宝物殿、神苑は割愛(拝観料 300 円)

明治天皇の勅命によって創建された神社で、後醍醐天皇皇子の護良親王を主祭神とする。

護良親王は鎌倉幕府を倒し建武中興を実現したが、その後足利尊氏との対立により足利方に捕えられ中先代の乱の混乱の中で尊氏の弟の直義によって殺害された。

注：中先代の乱：14代執権北条高時の遺児時行が、鎌倉幕府再興のため挙兵した反乱。先代(北条氏)と後代(足利氏)との間にあって、一時的に鎌倉を支配したことから中先代の乱と呼ばれている。

鎌倉宮には、本殿や拝殿、楼門などの重要文化財があります。



・**盃割り舎**：丸い小さな盃に息を吹きかけ（厄を吹きかけ）、**厄割り石**に向って厄を吹きかけた盃を投げて割ることで厄払いができます。割れなかった場合は、割れるまで投げ続けます。

・**撫で身代わり**：護良親王が身に付けていた鎧を村上義光公が身につけ、「われこそは、大塔宮護良親王ぞ、汝ら腹を切る時の手本とせよ」と告げ、護良親王の身代わりとなり、切腹を行いました。護良親王の身代わりになった村上義光公を鎌倉宮境内の樹齢103年の櫟の大木で彫り上げ、入魂されたのが村上社の前にある「撫で身代わり」です。

③ 史跡永福寺(ようふくじ)跡

国指定史跡永福寺跡は源頼朝が、1189年の奥州合戦で亡くなった弟の源義経や義経をかくまった奥州平泉の藤原泰衡ら数万の霊を供養するために1192年に建てた永福寺の跡です。



発掘調査により見つかった、建物の基壇や苑池などを復元整備して、史跡公園として公開しています。

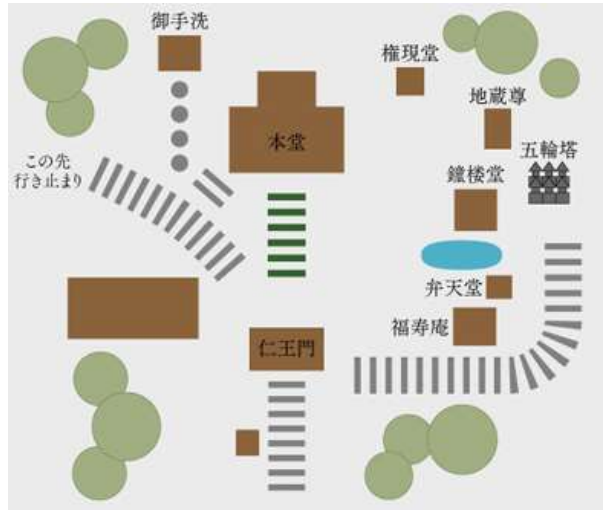
永福寺は奥州藤原氏が建てた平泉中尊寺の屋根が二層になった二階大堂大長寿院を手本に造ったもので、池に面して建つ、非常に大きく美しい寺院でした。永福寺も二階堂と通称され、この地区の名称となりました。1450年の火事で焼失したといわれ、廃寺となりましたが、発掘調査により、本堂（二階堂）の両側に阿弥陀堂、薬師堂の三堂が横に並び、その前面に広い池が作られ、中の島や釣殿がある浄土式庭園を持つ壮大な寺院の遺構が確認されています。

スマートフォンに「AR 永福寺」のアプリをインストールして現地アプリ内のカメラで現地の AR 看板にある QR コードを読み取ると、原寸大の永福寺の復元 CG が立ち上がります。

④ 杉本寺(杉本観音)

三体の十一面観音を本尊とする鎌倉最古の寺。坂東三十三箇所・鎌倉三十三箇所の第1番札所。境内にはおびただしい数の白い奉納旗が荘厳な雰囲気醸し出す鎌倉石の苔の石段が美しいお寺です。鎌倉では珍しく本堂に上がって秘仏を拝観できる貴重なお寺です。

拝観料 300 円



⑤ 報国寺 庭拝観料 300 円

足利家と上杉家の菩提寺として五山・十刹の次の諸山に位置づけられ、寺域もひろく栄えた報国寺は古くから境内の孟宗竹の林が有名で、「竹庭の寺」と呼ばれています。報国寺は、足利尊氏の祖父家時が建武元(1334)年に創建したと伝えられます。



本尊は釈迦如来坐像で、有名な仏師宅間法眼の作といわれます。今も報国寺があるところを「宅間谷」といいますが、これは宅間法眼の屋敷があったことに由来しています。

本堂の左手には鐘楼があり、さらにその左には、多数の小型の五輪塔などが集められています。由比ガ浜などから発掘された、新田義貞鎌倉攻めの際の両軍戦死者の石塔を集めた供養塔だそうです。

竹林の右手の崖には、やぐらが掘られていて、多数の五輪塔が置かれているのが眺められます。開基といわれる足利家時とここで自刃した足利義久の墓が安置されているということです。

⑥ 浄明寺 拝観料 100円

浄明寺は1188（文治4）年、源頼朝の重臣・足利義兼により、創建されたと伝えます。どっしりとした屋根の本堂が風格を感じさせる鎌倉五山の第五位です。



注：鎌倉にある五つの禅宗の寺院。建長寺、円覚寺、寿福寺、浄智寺、浄妙寺の五つを鎌倉五山といっている。

浄妙寺は、はじめは真言宗の寺で極楽寺といましたが、臨済宗の禅刹に改められ、のちに寺号も浄妙寺と変わりました。中興開基は足利尊氏の父貞氏で、室町時代は鎌倉公方の菩提寺として栄えました。多数の伽藍や塔頭を持つ大寺院でしたが、火災などのために徐々に規模が縮小し、現在は総門・本堂・客殿・庫裏というたたずまいとなっています。

山あじさいの小径：四季の野草などがみられます。途中にあるベンチからは衣張山が一望できます。

イングリッシュガーデン：いつも美しい草花でお客様をお迎えできるようにスタッフ全員で手入れをしています。お茶の合間やお食事の後、散策をお楽しみ下さい。

喜泉庵：枯山水の庭に向かって敷かれた緋毛氈に座りながら、足利氏の紋が入ったらくがんとお抹茶をいただけます。

石窯ガーデンテラス：テラス席は、小鳥の音が聞こえる気持ちの良い空気の中でゆったりとしたくつろぎの時間をお過ごし下さい。

浄明寺は最後の訪問先で、15:33のバスで鎌倉駅に行く予定です。それまでゆっくりしましょう。石窯ガーデンテラスでお茶ができる時間があるといいですね。所沢帰着は18時頃の予定です。



